

2020年(令和2年)  
第145号  
(1月1日)



発行所：立正佼成会 京都教会  
発行責任者：渉外部長 田中規之  
編集委員長：渉外広報 植田恭司  
〒605-0041 京都市東山区三条東町 230  
TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

### 今月のことば ～ほんとうの自分に帰る～

京都教会長 中村憲一郎

「令和」の元号はじめてのお正月を迎えました。明けましておめでとうございます。

「令和」の時代が始まった昨年もまた、世界的な気候変動の影響を受けて深刻な自然災害が頻発し、多くの尊いのちや家屋が失われ、今なお復興の途上にある方も少なくありません。犠牲となられた方々のご冥福お祈りし、災害に遭われた方々にお見舞いを申し上げます。

さて、会長先生は今月のご法話の冒頭で、初春にふさわしい次のような歌をご紹介くださっています。「かたちなき時間といへど一年がゆたけきままにわが前にあり」(佐藤佐太郎)。その意味するところは、新たな年を迎えた私たちの前には、豊かで、まっさらな「時」が広がっているということです。さらに「どのような一年にするかは、すべて自分にかかっている」と述べ、一年をどう過ごすか、どう成長、進化させていくかを自身に問うことをお勧めくださいました。

その上で、釈尊の一子であり、後に仏弟子となった羅睺羅の修行をご紹介くださり、「密行第一」と称されるに至った理由は、「先輩たちの指導や助言を素直に聞き、謙虚になって、人が見ていないときでもひたすら教えを学び、実践しつづけたから」と、仏道修行を行う上で「素直さと謙虚さ」こそが大切な徳目であると、その努力精進の先にこそ、貪・瞋・痴などの煩惱を離れた「ほんとうの自分(仏性)」に帰ることができるとご教示くださいました。まっさらな一年が、まるまる私の前に広がっていることを思う時、この一年をどのようなテーマをもって歩むのか、考えただけでもワクワクしてまいります。

人間は、心の羅針盤によってその人の生き方の方向性を決めてしまいます。仏教ではこれを「一念三千」(心の一念が三千世界の及ぶ)と説きます。例えば心の関心(一念)が自己欲にとらわれていれば、自己都合の良いことばかりに心が動き、行動します。それ

とは違って、昨年世界的な反響を巻き起こしたスウェーデン人のグレタ・トゥーンベリさん(16歳)のように温暖化による地球の危機を真剣に訴える人は、目先の繁栄よりも地球規模の将来を見据えます。立ち位置や関心(テーマ)によってまるで見え方が違うのです。

振り返ると私自身の人生テーマ(関心事)は、いかに経済的に恵まれ、安定した生活をするかという事でした。父の度重なる借金苦から、私が中学1年の時に両親が離婚し、私は伯父の家に預けられ、中学の終わり頃からは、父親、母親の家を転々とする中で育ちました。こうした不安定な生活の中で、言葉でも態度でも親を批判し、「俺は絶対におやじのようにはならない」と固く心に誓う頑なな生き方をしていました。そんな私でしたので、人を心から信じることはできません。いつも孤独を感じながら生きていました。

そんな満たされない想いの学生生活でしたが、大学1年の夏、大学生練成会に参加し、仏教の見方、考え方を学ぶことをきっかけに、私の孤独な人生は一変したのです。一番の変化は、それまで憎んでいた父の立場になって考えることができたことです。もちろん父のすべてが分かった訳ではありませんが、先輩たちの温かなふれあいと勧めによって、それまでの頑なで冷え切った心がまるで氷解するように、私の本心が何を望んでいたのかを素直に見つめ、自覚することができたのです。

すると、父に対して一方的に決めつけていた己の身勝手さに気づき、借金をした父を一方的に裁いていたことを深く反省サングレすることができたのです。その時に味わったすがすがしい想いの体験が、後にこの道に私を導く機縁となりました。ほんとうの自分に帰るためには、周りの声に耳を傾ける「素直さ」と受け入れる「謙虚さ」が仏道修行には欠くことができません。

新年に改めてかみしめさせていただき、精進をお誓いしたいと思います。 合掌

なりますように願って！

年初めからクイズです。「今年の漢字」は何でしょう？『令』……は、去年の漢字です。答えは『咲』です。実は、十二月二十三日に熊野大社で書き上げられたものです▼九鬼家隆宮司は「人々の思いが花咲き、笑いの絶えない一年となるよう願って、この字を選んだ」と語っておられました。熊野大社では、この書を社務所前に飾られます▼熊野大社では年末に、正月に飾られる文字を書かれるので、来年の漢字は今年「漢字」になります。書初めを年が明ける前に仕上げるというのをさしている方も多いと思います▼ところで書初めは、平安時代からあったそうです。一年間の目標や抱負を定めること、字の上達を願うという意味があります。一月中旬に行われる『どんど焼き』で書初めを燃やして、目標成就を願いました▼今年、どんな一年にしたいと思えますか。それぞれを「書初め」に綴ってはいかがでしょう。お互いさま良い年になりますように願って！

時事刻々

## 宿直者の集い ～地域避難所の役割確認、支部課題を活発に討議～

京都教会壮年部は昨年11月23日「令和元年 宿直感謝の集い」を開催し、各支部で宿直に参加している壮・青年部員が多数参加しました。

集いは第2、3研修室を会場にし、川崎壮年部長導師のもと読経供養から始まりました。

その後、教会管理の村上氏から災害時の対応要領について研修が行われ、教会が地域避難所に指定されているため、大地震の際には周辺の自治会から役員が来られることや第二駐車場が待機場所になること、防災センターの宿直者と連携をとって対応すること、また火災の際には、まず非常ベルを鳴らすなど、災害時の初動についてなどの説明があり、今後マニュアル化して宿直室に設置すると述べました。

その後、佐藤教会長(当時)がお言葉を述べ、自身が大学生時代の体験を述懐。宿直に入ると先輩からの信仰体験を聞くことが楽しみで、宿直は嫌でなく楽しみだったと振り返りました。お給仕の心、ご宝前の飯水茶やご本尊にお供えするお茶の残りで、お給仕をした者がご本尊の次にそのお茶を頂くなど、とてもありがたいお茶を頂けるのは宿直の特権だと説明、これらを通して人材育成につながると述べました。

また、教団に奉職した頃、杉並区道場(旧第二道場)が神田川の氾濫で、1階のご本尊の足元まで水が迫ってきたことがあったと振り返り、このようなことも、

様々な対応能力を高めることにもなっていると思うと述べました。

宿直班の中には相性の合わない方もあるかもしれないが、宿直はそのままのふれあいで本質を学ぶ機会でもあるため、先輩を立てることなども、その縁の中で学び、仏さまの教え、サンガの仲間を知る良い機会でもあると期待を寄せました。

その後は支部混成で7グループに分かれ、①宿直法座について、②2019年の振り返りと2020年に向けての討議が活発に行われました。

休憩後、支部ごとに分かれ、先程の討議を踏まえ2020年に向けての話し合いが行われました。各支部からの発表は、「朝夕のご供養と手取りの実践」「ぎりぎりの人数での4組編成、手取り、特に若手の工夫」「支部全体で連携して取り組み」「班分けなし、各月当番長制にして順番に回す案を検討中」「回数に差が出ているため、均等に功德を頂けるように」「助っ人で成り立っている、教会としてあり方・連携の検討を」「3人しかないない…」「つながりが高齢で運転が心配、若手チームを作る」「マンネリ化に工夫をすれば来られる、功德に気づき手取りを」「他支部との交流、手取りの交流」等があげられました。

閉会後は第1研修室に移動し、懇親会を開催。交流を深めました。



## 教会大掃除 ～一年の感謝を込めて、心も磨く～

年末の教会大掃除が12月22日に行われ、多くの会員が参加しました。

中村教会長は挨拶の中で、「教会は修行の場、本番は家庭。今日の掃除を通して学んだことをご自宅でも活かしていきましょう」と述べました。京都聖友会は聖

壇を、各部各支部は振り当てられた場所を担当しました。初めてご本尊のお身拭いをした聖壇役員は、「身の引き締まる思いでさせて頂けた。テレビで年末に大仏のお身拭いが放映されているが、同じような経験ができ、有り難かった」と感想を述べていました。





## 合格祈願の集い ～あらゆる物事は自分を向上させるきっかけ～

京都教会学生部は11月30日、合格祈願の集いを法座席で開催し、国家資格を受験する社会人や2020年春に高校受験する中学生をはじめ、その保護者も参加しました。

佐藤教会長(当時)導師のもと、聖壇役員は学生部員で構成し、祈願文には40名の受験者名を読み上げ、読経供養。その後、記念品授与、法座、学生部長からのメッセージと続けました。石川学生部長はメッセージの中で開祖さまのお言葉を引用。「条件のせいにならず、困難なことから逃げるより、自分のこととしてチャレンジしましょう。また自分の限界を決めずに、チ



ャレンジする生き方が仏さまの教えそのまま。あらゆる物事は自分を向上させるきっかけです」と紹介し、受験生にエールを送りました。

佐藤教会長は、心さわしい学校に必ず入れるお手配を頂けるので、何も心配することはないと述べ、縦の命の繋がりである親・先祖に感謝すること、それが分かることが合格。また横のつながりである学校の先生、近所の方々、さまざまな人のおかげが分かることが合格だと、これは学生だけではなく、生きることは学ぶこと、学ぶことは生きることだと会長先生のお言葉を紹介し、締めくくりました。

## 京都佼成議員懇話会懇親会 ～議員と教会役員の交流を深める～

12月12日、中京区・木屋町の「さざんか亭本店」において京都佼成議員懇話会の懇親会が開催されました。京都府議会議員、京都市・宇治市・向日市・城陽市の各市議会議員と京都教会各部長、支部長が参加し、終始和やかな雰囲気の中、交流を深めることが出来ました。

一人ひとり自己紹介と近況を報告があり、各議員は徳分を高めるように学び合っていたいと述べ、教会

役員からは政治や社会のことに関心をもって人々を救っていきたくて語っていました。

最後は良き年が迎えられるようにと、一本締めのもと締めくくられました。



## 日常生活の中の仏教用語 ～えっ？こんな言葉も仏教が語源？～

言葉のルーツを知って仏教に親しみを持ちましょう。

【日常茶飯(にちじょうさはん)】

毎日の食事のように、ごく平凡で、ありふれた物事を指す。

禅宗ではこれと同じ意味をもつ言葉に「家常茶飯(かじょうさはん)」がある。禅の世界では、どんなに深い真理でも、日常、物を食べたりお茶を飲んだりするように、あたりまえのこととして実践されなければ意味

がない、と教える。それは茶を飲んだり、食事のあとに茶碗を洗うといった、あたりまえのことを禅問答に盛り込んでいることからわかる。

逆に、平凡なことがらのなかにこそ、真理があり、それに気づくことが大切だ、というふうにも理解できる。

(「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋)

# 庭 野 日 敬 開 祖 法 話 集

～開祖隨感より～

## 「正月は己を正す月」

みなさま、明けましておめでとうございます。人は生きていくかぎり、「もっとこうなりたい」「こうあってほしい」というように、いろいろと願いを持ちます。新しい年を迎えて、みなさんも、いろいろな願い、祈りをされたことと思います。とりわけ信仰者にとって祈りは大切です。しかし、新年早々厳しいことを申し上げるようですが、その祈りが、自分のことだけをお願いするものになっていないかどうか、自分の心に問うてみてほしいのです。

大事なのは、まず祈りに値する自分であるかどうか顧みることです。そして、「かなえてもらいたい願いにふさわしい自分になれるように、精いっぱい努力をいたしますから、どうかお見守りください」とお祈りするのが、本当の祈りなのではないでしょうか。

正月とは正す月と書きます。己の心の姿勢を正して、新しい一年を踏み出す大事な月、それが正月です。どうか、その決意をもってお屠蘇を祝っていただきたいものです。

## 「一家和楽の条件」

正月には「睦月」の別名があります。家族そろって睦まじく暮らすという意味で、「今年こそ家内円満を」と祈願された方も多いことでしょう。しかし、それは棚からぼたもちで授かるものではありません。なすべきことがあるのです。

まず、ご先祖さまをお祀りして、毎朝、お水・お茶・ご飯をお供えし、経典読誦のご供養を欠かさない。小さなことのように思えるかもしれませんが、なすべきことの方が定まると、家の中全体が和やかで、ちょうど軸を得た車輪のように、なめらかに回りだすのです。それから、教会にお参りして法座にすわらせてもらい、自分のことだけでなく、人さまのことにも心配し

てあげられるようになってくると、いつのまにか家の中のゴタゴタが収まって、笑い声の絶えない家庭になっているのですね。

八正道（はっしょうどう）のなかにあげられている正精進（しょうしょうじん）は、自分がめざす正しい目的に向かってまっすぐに励み、怠けたり、わき道にそれたりしないことです。一日一日、その努力を続けていくと、仏さまのみ心にかなった身と心の使い方ができるようになって、必ず仏さまがご褒美をくださいます。

## 「経力を頂戴する」

今年も寒中読誦修行（かんちゅうどくじゅしゅぎょう）が始まりました。まだ夜も明けきらぬ早朝、寒さを吹き飛ばして道場へかけつけ、腹の底から声を出して真剣に経典の読誦をすると、内から力がみなぎってきます。

私たちが読誦するその法華経の経典の一文字一文字に、仏さまの願いが宿っています。また、これまで数えきれない人たちによって読誦されてきたその祈りが、お経にはこもっています。その仏さまの願いと一つになり、人びとの祈りと一つになったときに、法華経の経力（きょうりき）を頂戴することができるのです。仏さまのご守護とは、摩訶不思議な力で私たちの願いをかなえてくださることではありません。

私たちがどんな困難にぶつかろうと、仏さまはいつも私たちについてくださって、「私が見守ってあげているから、大丈夫なのですよ」「あなたは、そこを乗り越えることができる力を具えているのですよ」と後押ししてくださり、私たちの力を、ありったけ引きだしてくださるのです。それが仏さまのご守護です。その仏さまのお見守りを信じて、全力を尽くすことこそ大切です。（つづく）

## 1～2月の主な教会行事

1月1日(水)	6:30～	元旦参り
4日(土)	9:00～	開祖さまご命日
7日(火)	9:00～	御親教
10日(金)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(水)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
26日(日)	10:00～	第54回成人式
19日～26日	6:00～	寒中読誦修行
2月1日(土)	9:00～	朔日参り
3日(月)	9:00～	節分会
4日(火)	9:00～	開祖さまご命日
10日(月)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(土)	9:00～	涅槃会・釈迦牟尼仏ご命日

## ●メッセージ

2019年の十大ニュースを振り返るとさまざまな順位があるものの、やはりトップは「天皇陛下が即位。『令和』に改元」が多数を占めました。暗い出来事も多かった中、国民がお祝いムードになりました。そして今年2020年は東京オリンピックを迎えます。

1964年の東京オリンピックは、戦後急速な復活を遂げた日本が、再び国際社会の中心に復帰するシンボリックな意味を持つとされており、当時を知る人も多いと思います。今回のオリンピックは復興五輪とも称され、東日本大震災から復興した姿を内外に示す意味もあるようですが、決してあの震災を忘れることなく支援し続ける姿勢を示すことが大切だと思います。